



ぽっぽ通信



かなや小児科院内報 2018年8月号

伝染性膿痂疹(とびひ)に注意しましょう!

夏のこの季節。年齢の小さな子ほど蚊に刺されたところが腫れたり、ひどい子は水疱になってしまうこともあります。また汗疹になったり、汗かぶれで湿疹が出来たり皮膚トラブルにも悩まされる子どもも多いと思います。

虫刺されやあせもなどの部分をかきむしったところにブドウ球菌や溶連菌などの菌が付着することで伝染性膿痂疹(とびひ)になります。

この伝染性膿痂疹(とびひ)は接触によってうつります。その広がり方が、火事の時の飛び火の様にあつという間に広がる様から、「とびひ」と呼ばれる様になるほどです。

とびひには2種類あります。水ぶくれになってしまうものと、傷がジュクジュクしたり分厚い瘡蓋におおわれてしまうものです。

ではその「とびひ」を予防するにはどうしたらよいのでしょうか。

・蚊に刺された部分には市販のかゆみ止めを使用するのもよいでしょう。腫れて水疱になってしまっていたら掻き崩さないよう絆創膏やガーゼをあててあげてもいいですね。ただしその絆創膏やガーゼを当てっぱなしにしないこと。1日2回は石けんで洗って交換してあげてください。

・あせも予防には汗をしっかりと拭き取ること。汗で湿った服を着たままにしないこと。可能なら汗をかいた後は水浴びなど何度でもさせてよいですよ。

そして掻きむしらないように爪を短く清潔に。そして手洗いをさせることです。

ではもしとびひになってしまったら、どのような処置が必要なのでしょうか。

軽傷の場合は抗生剤の軟膏が処方されます。全身に広がっていたり、広がりが少ない場合でも皮膚の状態によっては抗生剤の内服も併用することがあります。

自宅ではとにかく清潔です。泡でしっかり洗ったあと、ジュクジュクした部分が他に接触しない様、軟膏塗布した後はガーゼなどで覆いましょう。兄弟がいる場合には入浴は最後に、タオルは別にしましょう。

保育園や幼稚園ではプールには入れません。皮膚科の方がいいかなと思われる親御さんも多いと思いますが小児科でも診察できますよ☺是非ご相談下さい。

院長のつぶやき

今月はお休み☺



親御さんへ今月のお勧め本

夏休み。子どもと過ごす時間が長いと色々ありますよね。子どもの考えていることが分からなかったり、どう接していいのか分からなかったり、ついイライラしてしまったり。夏休み明けに登校できなくなる事も多いので、この本で少し親子の関係を見直して見るのもいいかもしれません。



休日当番日のお知らせ

| | |
|-------|---------------|
| 8月19日 | 岡本小児科 |
| 8月26日 | 石和こどもクリニック |
| 9月2日 | はら小児科 |
| 9月9日 | しみず小児科 |
| 9月16日 | 大分こども療育センター |
| 8月12日 | わかやま・こどもクリニック |

受付より
受付下に忘れ物BOXを設置
しておりますので、お心当たり
の方はご覧下さい☺

